

入選

「薬を安心して処方してもらうことに貢献できる喜び」

正清幸男（アステラス製薬株式会社 関越支店 新潟第一営業所）

薬は使い方を間違えば副作用を引き起こしたり、ことによれば社会的な問題に発展することがある。私は薬を安全に処方してもらうための最新の医薬品情報を医師に届けることを心がけ、医療に参加している喜びを感じている。現在多くの薬が認可され処方され患者の治療に役立っている。私達は薬と情報を介してチーム医療へ参加しており、特に情報が無ければ薬を安全に処方することはできない。薬は治験という厳格な管理の元で開発されたデータにより認可される。しかし、いったん認可された薬は年齢・性別・合併症・併用薬・様態が違う様々な患者に処方されるため、予期せぬ副作用が発現することもある。

MRの任務の一つに、未知の副作用を限りなく事前に防ぐために現場の情報を収集し、専門の部署で分析した医薬品情報を迅速に届ける役割がある。私は市販直後調査が義務化される以前の出来事であるが、ある新製品の発売直後に数名の患者に処方したその分野で著名な専門医から「この薬は、怖い！専門医以外が使うと大きな副作用を起こすな！」と何気ない一言を受けた経験がある。直ちに情報を本社に伝え【この薬を安全に処方するために】の注意喚起文書・ビデオを先程の専門医に監修頂き、発売早期に多くの医師に配布したことにより、事前に予測された副作用を未然に防いだ経験をした。もちろん私の情報だけで動いた事ではないが、あの時、私が「そうですか」と軽く聞き流していたら「もしかしたら副作用が多発し、新薬として短命であったかもしれない」と先程の専門医から私の迅速なMR活動を高く評価して頂いた経験がある。この経験が私のMRとしての大きな自信となり、MRの仕事がいかに重要であり薬を介して社会的貢献が出来るかを知り、その後の活動に大きな誇りを抱くことができた。

私はこの経験以降、特に情報の収集と迅速な提供を心がけるようになり、医師・薬剤師・看護師のチーム医療に陰ながら参加していると感じている。そして医師に薬を安心して使用いただくには日々適切な医薬品情報を紹介することが大切であると心がけている。現在は十数名のMRを束ねる職につき、MRの活動が会社にとって重要な役割を担うことを語り、所員の収集する貴重な情報を本部へ報告している。そして所員が使用上の注意・改定文書など適正かつ安全に処方してもらうための医薬品情報を迅速に的確な医師に届けてくれている。

私のMRとしての仕事を振り返ると、20年以上前の入社当時は 人間関係重視の営業とMRからの直接情報が重宝されたが、現在はインターネットをはじめ多くの情報が医療サイドでも簡単に入手できる時代となり、薬の用法用量に限らず他社の製品情報・患者の声がタイムリーに入手できる時代である。こうした時代の中でもMRが自社の薬のあらゆる情報に責任を持ち医療現場に届ける任務は変わっていない。MRが日々収集する情報がいずれ添付文書に追加記載される情報の源になる。そして、このような地道なMR活動により医師との信頼関係が深まり人間関係が構築される。いつの時代でも人間関係は大切である。今の弊社のMRの活動は、通常の医療機関訪問による情報提供に限らず、製品説明会を実施したり、自社製品を適正かつ安全に処方してもらうために専門医を招聘する研究会・講演会を開催したり、新聞・テレビによる患者啓発活動や、インターネットを利用した情報の提供だけでなく直接情報を入手するなど多岐にわたる。すべてこれらは薬を安心して処方してもらうための活動である。

私達MRが届ける情報をもとに多くの患者さんに安心して薬が処方され、1日でも早く改善されることが私の願いであり喜びである。そして私達MRが社会的責任感と倫理観を堅持しながら、継続して情報提供することが医療現場におけるMRの期待を高めると私は信じている。